

*** 今日の健康 (10月) ***

< 地球温暖化と感染症 ① >

冬季の低温は、昆虫などの分布地域を決める重要な要因です。地球温暖化やヒートアイランド現象によって冬季の気温が上昇すると、さまざまな害虫の分布域が北方に拡大する可能性があります。人を刺したり噛んだり、感染症を媒介したり、あるいは見た目が不快などのさまざまな“衛生害虫”が、近年生息地域を広げていることが確認されています。

今後このシリーズで示す害虫はごく一部で、他にもその可能性が考えられる種類は数多くあります。これらの種類も含め、現象として分布拡大が確認されているだけで、気温上昇との因果関係がきちんと把握されている訳ではありませんが、その可能性は十分に考えられます。また、建築や生活様式の変化による建物内の冬季の温度上昇が、新たな屋内害虫の発生や分布拡大を助長している可能性もあります。

<セアカゴケグモ>

オーストラリア原産と考えられているクモで、コブラ毒に匹敵する毒をもっています。1995年に高石市や四日市市で発見されましたが、現在は大阪府や三重県以外に兵庫県、愛知県、京都府などでも発見されており、物資の移動に伴って分布が拡大した可能性が指摘されています。2005年には群馬県でも数匹が発見され、駆除されましたが、これは大阪府からの引越し荷物に紛れて運ばれたものと考えられています。低温に弱いといわれていますが、温暖化で冬の気温が上昇すると、より北方でも定着が可能になるかもしれません。

咬まれた時の症状

- ・はじめはチクッと針で刺したような痛みを感じます。
- ・やがて咬まれた部分のまわりが腫れて赤くなります。痛みはしだいに全身に広がります。
- ・悪化すると、多量の汗をかいたり、さむけ、はき気などがあらわれることもあります。
- ・通常は、数日から数ヶ月で回復する例が多く、咬まれても重症になることはほとんどありません。



咬まれた時の処置

- ・万が一クモに咬まれたら、余分の毒を流水や石けん水で洗いおとします。多少出血があっても、包帯や止血帯はしないほうが良いでしょう。
- ・できるだけ早く病院に行って治療を受けることが大切です。(病院には咬まれたクモを殺して持参してください。適切な治療につながります。)

生息場所

網を張って住みつき、繁殖するには、日当たりが良く、暖かいところで、昆虫や小動物などの餌が豊富にあるところ、巣を張る適当なすき間があるなどの条件が必要です。

- ・排水溝の側面やふたの裏
- ・花壇のまわりのブロックのくぼみや穴、プランターと壁とのすき間、うつ伏せの空の植木鉢の中
- ・芝生や植木あるいは水抜き管の内部
- ・墓石の花立てと線香立ての間や巻き石などのすき間
- ・自動販売機の裏、クーラー室外機の裏、浄化槽プロアーカバーの内部などの人工的な熱源の周り

庭仕事などで襟足、袖やズボンの裾のすき間から侵入されないように注意が必要です。帽子や自転車用のヘルメット、長靴など身につけるものを長い間屋外に置いていて、その間にクモが入りこんでしまうので着用する時には中や裏側を十分に点検することが必要です。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏

*** 今日の健康 (12月) ***

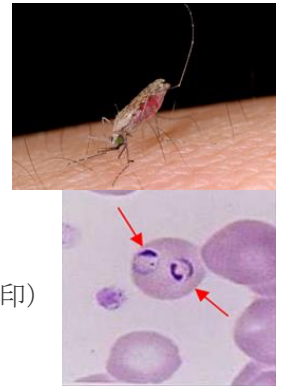
< 地球温暖化と感染症 ②マラリア >

マラリアは世界で年間約 2 億 1,000 万人が罹患し、63 万人が死亡する最も重要な感染症の一つで、マラリアを媒介するハマダラカが生息するためには最低気温が一定以上であることが必要で、そのため世界のマラリア分布は社会インフラが整備された地域を除き、気候条件によってほぼ規定されています。温暖化により冬の気温が上昇すると、マラリア流行地域の辺縁地域でハマダラカが生息できるようになり、マラリア流行地域が拡大する可能性があります。

将来の温暖化予測に基づいた研究では、2080 年世界の総人口 80 億人のうち 2 億 6,000 万~3 億 2,000 万人がマラリア流行地域に居住すると推定され、現在に比べてマラリア感染のリスクがある人口が 2~4% 増加すると推察されています。

写真は上：ハマダラカ、下：ヒトの赤血球内に寄生するマラリア原虫（赤矢印）

出典：[国立感染研究所ホームページ「衛生昆虫写真館（新館）」](#)



マラリアは原虫の感染によって起こる熱病で、蚊が原虫を媒介します。ヒトに感染するマラリア原虫には熱帯熱、三日熱、四日熱、卵型の 4 種類があります。

現在、日本国内でマラリアの流行はありませんが、日本では、明治時代からマラリア患者発生の報告がありました。1930 年代でも 5,000 から 9,000 人の患者が報告されていました。第二次世界大戦後に 500 万人を越す復員者によってマラリアの再流行が危惧されたものの、1946 年の 28,200 人をピークに 1951 年以後、国内感染例は急速に見られなくなりました。近年、マラリアの流行地域に滞在中にマラリアに感染し、帰国後に日本国内で発症する例が毎年 50~100 人報告されています。この中には診断や治療の遅れから死に至った例もあります。マラリアは感染している患者と媒介蚊、蚊の生息条件が調わないと発生しません。この条件が温暖化や大規模な自然災害などによって変化すると、“再発・再流行”する可能性があると言えます。

< 症 状 >

感染後 10 日程経過してから、発熱 (38.0℃以上)、倦怠感といったインフルエンザ様の症状がでます。熱帯熱マラリア以外のマラリアでは、潜伏期間が 10-30 日と長期になることもあります。発熱には周期性があり、マラリア原虫の種類によって 48 時間毎か 72 時間毎の発熱になります。熱帯熱マラリアでは周期性がなく常に熱があることが多いようです。マラリア原虫は血液中の赤血球に好んで寄生し発熱は、周期的に赤血球が破壊されるタイミングにおこるといわれています。症状が進行すると、貧血、黄疸などが出現します。

< 予 防 >

マラリアにはワクチンがなく（現在開発中）、予防には蚊対策が重要です。ハマダラカは夜間吸血する習性があり、日没後は外出せずに室内に留まれば感染のリスクは軽減されます。殺虫剤や蚊取り線香などで防御することも必要です。屋外では肌を露出しない服装（長袖・長ズボンを着用）をするとともに、虫よけスプレーも必需品です。内服薬による予防もありますが渡航など必要な人は医師に相談して下さい。

< 診 断 ・ 治 療 >

マラリアの確定診断は血液を顕微鏡で鏡検して赤血球中のマラリア原虫の存在を確認します。マラリアの迅速検査キットもありますが国内の一般的な医療機関には置いてありません。マラリア流行地域に滞在中や滞在後に発熱したら、必ず早めに、熱帯病の診断・治療ができる医療機関を受診しましょう。「最近、流行地への渡航歴がある」と、医師に伝えることが大切です。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏

*** 今日の健康（8月）***

< 地球温暖化と感染症 ③ >

感染症とは、微生物が体内に侵入し感染することによって起こる病気の総称と定義されます。ウイルスや細菌などの病原体が、野生動物や家畜などの自然宿主から蚊やダニなどの媒介動物を介して、飲料水や食物を介して、あるいは人から人に直接に侵入するために起こる病気です。

< どんなときに感染症にかかるのか >

感染症を引き起こす病原体には、ウイルス、細菌、原虫、寄生虫、真菌（カビ）など、さまざまなものがあります。一般的には、次のような条件があると、感染症にかかりやすくなります。

- ・人の体に侵入する病原体の数や侵入の機会が多い
- ・病原体の自然宿主や媒介する生物（媒介動物）が多い（注：媒介動物なしに感染する感染症もあります）
- ・病原体が侵入しやすい居住空間や生活様式である（ウイルスや媒介動物などと接触しやすい）
- ・公衆衛生の状態がよくない（栄養、衛生状態が悪い）

つまり、私たちが暮らす地域の中で、これらの条件がそろわないようにするための対策が重要となります。

< 地球温暖化（とくに気温や降雨量の変化）との関連が示唆されている感染症 >

主として蚊に媒介される感染症である、マラリア、デング熱、ウエストナイル熱、日本脳炎などが、温暖化とともに増加することを予測している報告もあります。しかしながら媒介動物の分布が、気温とともに降雨や地表水の状態の変動にも大きく依存しており、気温上昇のみでは説明しきれません。

温暖化に関連すると予想される感染症についても、世界保健機関のリスク評価結果では国際的には栄養不良、下痢、マラリア、洪水の順に死亡リスクが小さくなる傾向が示されています。気温以外の他に降雨量などの気象条件や、媒介動物の生態の変化、脆弱性の高い集団の変化、衛生環境の整備、治療や予防のための技術や必要な資源の変化などによる間接的な影響も重要です。

< 感染症と感染経路の例、網掛の部分が温暖化に影響を受けるとされています。 >

	媒介するもの	感染経路	感染症の種類
直接感染		咬まれる なめられる ひっかき傷 排泄物	狂犬病 パストレラ症 猫ひっかき病 トキソプラズマ症、回虫症
間接感染	媒介動物によるもの	蚊 ダニ げっ歯類 ノミ 巻き貝	日本脳炎、マラリア、デング熱、 ウエストナイル熱、リフトバレー熱 ダニ媒介性脳炎 ハンタウイルス肺症候群 ペスト 日本住血吸虫
	環境が媒介するもの	水系汚染 土壌汚染	下痢症（コレラ等） 炭疽
	動物性食品が媒介するもの	肉 魚肉	腸管出血性大腸菌感染症（O157 血清型）、 サルモネラ症 アニサキス症

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏